

○議長（中村 実君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、協働活動の実態と取り組みの充実についてであります。

地方分権の進展や、市民ニーズの多様化などで行政の果たすべき役割が大きくなっておりませんが、一方で、厳しい財政状況の中、将来にわたって必要な行政サービスを提供していくためには、行政への市民・市民組織・民間企業の積極的な参画が必要となっております。

そのための協働活動の重要性と必要性は、合併以来あらゆるケースで取り上げられ、各種事業などを通じて取り組まれておりますが、なかなか期待する成果に結びついていない感がいたします。

期待する成果が見えれば達成感も共有でき、次につなぐさらなる協働活動に発展するという好循環が生まれます。

情報を共有し、お互いが協力して活動する仕組みなどの基本的なところを中心に伺います。

(1) 協働活動の基本的な考え方と手法についてであります。

少子高齢化、人口減少社会の中にあって、生活の安心・安全をこれからも維持していくためには、地域での日常的なつながりを見詰め直し、多様化する課題に対し協働の力をどのように活用するかにかかっております。協働に対する行政の基本的な考え方と手法について伺います。

(2) 学校と地域や産業との連携、協働の推進についてであります。

小中学校では、学校と地域が連携する小中学校運営協議会制度が導入されたり、学校応援隊の活動も活発に行われており、市内高等学校と市は、連携して各学校の魅力づくり等、取り組んでいます。産学官の協働活動を推進する組織の活動にも期待しており、今後の協働の推進について伺います。

(3) 市道の美化に関する協働活動の提案についてであります。

長期財政見通しから見ても、今後の行財政運営は効率的かつ効果的に進めることが不可欠であり、特に、協働に関する事業を効果的に実施する必要があると考えており、その一例として市道の美化活動に協働の力を取り入れて、わかりやすい実践例としたらいかかと考え、伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、地域の活性化や住みよい地域を維持していくには、市民、地域、行政が一体となって課題を解決する協働の取り組みは、欠かせないものと考えております。

また、市民の活力をまちづくりに生かすため、計画づくりなど政策形成過程への市民参加を勧めるとともに情報を共有し、市民と行政が相互に補完しながら行政課題の解決に向けた取り組みを推進しております。

2点目につきましては、社会に開かれた教育課程の実現に向け、学校と地域との協働は重要と捉えております。小中学校では、今年度は全ての学校でコミュニティスクールの取り組みが始まり、高校でも今年度からは、高校を核とした地域人材育成事業に取り組んでおります。

3点目につきましては、市道を含めた公共施設の清掃や除草などには、さまざまな地域から多くの要望をいただいておりますが、全ての要望に応えられてないのが実情であり、行政の管理ばかりではなくて、地元の協力によって守られているところが多いと感じております。

ご提案の協働活動は、自分の地域を大切にしたい気持ちを育む効果もあると考え、実践例を参考に全市的に広めるよう努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、1点目の協働活動の基本的な考え方と手法についてお伺いをしたいと思います。

かつては住民同士のつながりが地域を支えていたわけでありますが、それが今は、さまざまな公共サービスというふうな形で、行政から私たちに提供されるということは結構多いんですけども、一言で言うといい時代になったというふうな感じもするわけですけども、一方では、このままでいいのかというふうな気がいたしておるわけですが、この辺の感覚というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員のご質問、確かに行政が主導的にやってくれていい時代だったなというふうなご質問ですけども、確かにこうであってはいけないと思います。やっぱり市民が主役で、やっぱり行政と市民が一体となった取り組みというのが必要になってきますし、より一層、これから人口減少社会も迎えておりますので、行政だけの力ではどうしてもできない部分があります。そういったところもありますので、やっぱり一緒になって一体になってやっていくという姿勢は必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

幸いまだまだ、まちの役に立ちたいという思いを持った市民は大勢いるというふうには思っているんですね。その思いを大切にしながら、誰もが気兼ねなく気軽にまちづくりに参加できる協働の仕組み、こういうものがあれば人と人とのつながり、それから喜びを感じられるまちをつくるということができるといふふうに思っておるんですが、その辺の考え方からしてどんな形がいいか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

1つの事例という形でちょっとお話をさせていただきたいと思いますが、企画定住課のほうでは地域づくりプランという形で住民の皆さん、特に公民館エリアになってくるんですけども、住民の自主的な活動に対して行政も一緒にやっていると。で、プランをつくってもらいながら一緒にやっていくという姿でやっております。これも1つの地域エリアの中での住民の皆さんの力をかりるといふ形で、協働のスタイルというのとはとっているというふうに思っております。まだほかにもこういった協働の活動というのは、私が申し上げたのは、たった一例ですので、全市的に見れば多くあると思うんですね。やっぱり役に立ちたいという市民の皆さんの思いというのは、非常にありがたいと思います。そこら辺を議員のご質問にもありましたように、人と人をつなげると。そのつながり、コーディネートするというのが仕組みとしてもうちちょっと必要なのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

第2次総合計画、各章、それから節・項目に、ほぼ各ページ、協働の取り組みについて、協働の必要性というのが載っておるわけですね。そのほとんどの語尾は、行います、推進しますで締めくくられとるわけなんです、その先の事業にどのようにつながっているか、ここが問題じゃないかなというふうに感じるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

これを一つの事例という形で具体的にお話をしたほうがいいのかというふうに思っておりますので、まず一つの事例としまして、日本型農業支払事業というのが総合計画の中にあると思うんですね。この事業は、やっぱり地域でのかかわる皆さんの協働作業とかによりまして、そこにある地域資源の活用ですとかやっぱり農村の環境の保全活動、例えば自分たちの集落を潤いのあるものにしたという形で植栽をしたりとか花をいっぱい植えたりとか、そういった景観をつくるという

活動ができていけると思っております。

市とすれば、総合計画の中では推進しますとかそういう言い方を書いてありますけども、具体的にはそういった事業の中でつながっておりますので、今たとえ一例でありますけども、ほかにもこういった事業をやっぱりふやしていかなきゃいけないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長がお話しされた制度、非常に理にかなった協働活動の場であるというふうに私も思っております。全ての章で協働の取り組みとして役割分担が書かれておるわけですが、行政の区分けとして総務、産業、市民、教育、消防、こういうふうに分けた場合、それぞれの今部、それから教育委員会、消防本部として協働に取り組んでいる実態をお聞かせいただければと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本総務部長。〔総務部長 山本将世君登壇〕

○総務部長（山本将世君）

お答えさせていただきます。

総務部の関係におきましては、先ほど企画定住課長が申しあげました地域づくりプランというような事業しておりますけど、この策定の段階におきましても行政と市民の皆様方が地域コミュニティの強化、また身近な地域の課題を解決すると、そういった目的に向かって協議をしながら進めることにつきましては、これも1つの協働化と思っております。

また、このプランによって実現する事業の中身につきましても、それぞれ地域の中にある困り事、そういったものを解決手段として事業を起こしていただきまして、これにつきましても協働の一部と思っております。

また、同じ形でまちづくりパワーアップ事業というものを企画定住課のほうで行わせていただいておりますが、こちらにつきましては、市の活性化なり、広く市民に貢献する事業という形の中で補助を出させていただいておりますけども、これやはり市民のそういった活動に対して行政が支援する中での協働の取り組みというふうに考えるとところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

産業部として市民の皆さんにたくさん参加していただくって非常にたくさんあるんですけど、ほんの一部でございますが、例えばごみを拾っていただくボランティアであったり、除雪ボランティアといったのもあると思います。また、桜のオーナー制度、それから道路のサポーター制度もそうでございますし、公園管理、これはまだ糸魚川市としてはやっておりますけれども、公園管理

をしていただく、草刈り等は地元でやっていただいております。そういったことについて、市民や企業、それから行政と一緒に活動してまちづくりをすることが産業部として考えられる協働でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

市民部の分野におきましては、交通安全、防犯、またごみの収集における集積場所の設置とか、あと側溝清掃、草刈り、環境デーとかにおける地域清掃、あと福祉分野においては、ひとり暮らしの高齢者の安否確認作業等で地域の皆さんのご協力をいただきながら、事業に取り組んでるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

教育委員会では、議員のご質問にありますように学校運営協議会、学校応援隊、高校を核とした地域人材育成事業のほか、文化財の維持管理などについて、協働の取り組みによりまして進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

消防本部につきましては、防災と消防というところで担当してるわけですが、防災、消防ともに市民、地域、市内事業所との協働の上に成り立っているというふうに思っております。

防災におきましては、自助、共助、公助ということで取り組んでおりますが、それぞれ地域における地域の住民の安全を図っていただく活動、それについては一緒にやっております。具体的なことを申し上げますと、自主防災組織で私どもと一緒にハザードマップをつくって、それをもとに地域の住民に危険をお知らせいただき避難訓練をやっていただくというような取り組み、それから、より具体的にわかりやすい例といいますと、昨年度から取り組んでおります40ミリホース、地域の初期消火火災対応力を上げようということで、私どもで40ミリホースを整備しまして、地域におきましてそれで訓練をしていただき、初期消火をやって地域の火災対応力を上げていただくというような取り組みを協働でやっております。それから災害時応援協定団体、市内に限らず今61団体ございますけども、そちらのほうとの協定に基づいて日ごろから取り組んでおりますし、消防分野におきましては、消防団活動そのものが協働と言えるのではないかと思います。消防団は当然、消防組織法で条例で設置されている市の非常勤特別職なんですけども、皆さんほかに仕事をもちながら地域活動とともにやっていただいております。そういったものも含めまして、私ども引き

続き協働の上に成り立っていこうと思っておりますので、事業を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ほど紹介をさせていただきました、本当に実際かなりの事業で取り組まれているということを確認したわけでございます。平成27年9月の市民アンケート調査では、市民満足度が47.7%、平成22年8月の調査では49%でしたので、若干下がっておるわけですが、妙高市は39.6%、それから上越市は72.1%の満足、この上越市の場合は地の利もありますし、高いわけでございますが、糸魚川市の満足度、これ以上アップするというのは、非常に行政の皆さん一生懸命取り組んでおられるんですが、なかなか難しいと思うんですね。私は、ここはやっぱり市民の出番じゃないかなと。市民の皆さんが満足できない部分は、みずからが出て、自分の市の満足度を上げていただくというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

満足度のアップということで、ここは市民の出番というご質問ですけども、確かにおっしゃるとおりだと思います。その市民の皆さんが、満足度を上げるためにここは出番だ、そういった行動につなげてもらう必要があるんですね。そのためにやっぱりまちへの愛着意識というのが一番大事だと思います。やっぱりこの町が好きで、この町はいいなと、こういうやっぱり愛着の意識の醸成というのが大事だと思いますので、そこら辺を上げることによって、この市民の皆さんの出番というものを上げていければなというふうに、大変難しいんですけども、そういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、行政の職員の協働に関するアンケート調査を行っている市町村というのは結構あるんですが、糸魚川市はこの種のアンケートというのは行ったことはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

毎年度ですが、職員に対してアンケートを実施しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

他の市町村のものを見ても、行政としてはかなり先進地だと思ってる地域でも、協働を意識している職員というのは、まだ半数ぐらいなんです。この市民との協働は、非常に最初は時間がかかる。事業消化するに、非常に面倒だというようなこともあるようなんですが、実際この辺のところはどうお感じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

既に取り組んでいるものですか、活動している団体とか、母体があるという取り組みについては、比較的協働の取り組みというのは、話の持っていく方というのは理解がしやすいのかなというふうに思うんですけども、やっぱり新たな分野での協働のところで、まず施策をつくったとしても、まず相手方に理解をしてもらうというのは非常にエネルギーの要るというふうに思っております。そういったところで、やっぱりその事業とか施策を持ったときに、なぜ協働でやるんだと、そういった意義とか必要性をやっぱり丁寧に説明をする必要があるんだなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それと市民との協働が、新たな仕事として加わることによって、これを負担感というふうに受け取るようだとなかなか難しい。それから、協働を単に行政経費の削減策なんだというふうな考え方でいきますと、パートナーである市民とか民間団体にかかなり下請的な意識で受け取られてしまうというようなことも非常に心配なんです。そういうことがもろに出ちゃうと失敗して、それを再構築するとなると大変なまた時間がかかるというようなことも心配をするところなんです。その辺のところはどうお感じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員のおっしゃるとおりだと思います。確かに市民へ、特に地域の皆さんに、これまで行政がやっていた仕事を持っていくと、また押しつけられたとか、そういった感を持たれると、なかなか受け入れというのは難しいというふうに思っております。やはりそこはやっぱり市と市民が一体でやるというやっぱり姿勢をしっかりと見せて、説明をしながら丁寧な対応をしていくというのが必要

であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

行政からしかける協働もあるんですが、逆に市民や各種団体が、企画した活動に行政が積極的に参加するということもあるようですし、また最近、私もよく見かけておるんですが、その辺はどんな状況ですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの調査の関係になりますけども、活動に参加している職員の割合は、約6割にちょっと欠けるぐらいの数字を維持しております。また、地域行事に参加してるかどうかというアンケートも4分の3以上の職員が地域行事に参加しているといった数字が出ております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

協働が進まない理由として、一般的に挙げられているのが、目標と計画がない、流れもルールもない、推進するツールや体制がない、評価がなされていない、こういうようなことを言われているんですが、これはまさしくPDCAサイクル、これと一致するわけですね。ですから、協働の仕組みの中にこういうものを導入すれば、かなり仕組みがわかりやすくなるんじゃないかなというふうに思うんですけども、その辺は仕組みとして、今もたくさん協働をされてるんですが、どんな形で動いてるのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

事例的にちょっと今、頭にちょっと思いつかないんですけども、確かにPDCAサイクルを回すということは、やっぱりお互いに共通の目的ですとか情報の共有をしっかりとやらなきゃいけないというふうに思います。その中でマネジメントサイクルを回して、お互いに進捗の確認を見るとか、課題を見つけ出すとか、その次に改善にどう結びつけていくかと。そういったところを考える1つの手段としては、本当にわかりやすいものかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

こういう協働に関する施策を進めるというためには、糸魚川らしい協働のあり方、この仕組みをつくる必要があるわけですが、中間組織的なところで協働活動推進委員会というようなものも、やっぱり調整機能を持った組織も必要になってくるんじゃないかと思うんですが、その辺の足場というのは確立されているのかどうかをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

協働の取り組みにつきましては、やっぱり先ほど各部長からもいろいろ事例を、お話をいただきましたけども、やっぱりさまざまなケースがあると思うんですね、多種多様ないろんなケースがあると思います。そういった多くの事例を集めて、調査研究をしていく中で、どういった機能調整を持った組織がいいのかとか、そういった部分を模索していかなきゃいけないと思います。今ここで、ちょっと即答で組織云々ということは言えませんが、多くの事例があるので、そういった事例を調査研究をしながら方向をちょっと考えていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先ほど各部の部長さん方から、それぞれの部で取り組んでいる実態をお聞きしたんですが、この行政の中にも協働の取り組みの調整など、いわゆる部がまたがったり課がまたがったりいろいろあるわけですが、協働活動推進室なるものを企画課なら企画課の中に設けるといことも、行政の機構の中でも必要になってくるんじゃないかなというような気もするんですが、その辺のお考えは、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり協働の必要性は、もう嫌というほど我々も認識いたしておるわけでありまして、その中でなかなか全市的に広まってないのも実情であります。その辺を考えたときに協働の、やはり組織をしっかりとって進めていけるような方向がいいのか、何で協働が必要なのかというところを考えたときに、この成熟社会において、協働の気持ちなり考え方が減ってきてることを考えたときには、やはり基本的なところが薄れてきてる。

それはなぜかと考えると、今公共施設のことを例に挙げさせていただいてるんですが、その以前のやっぱり協働生活、協働社会の中において、お祭りとか地域の行事というものがだんだん薄れてきたり、いろんなものがそういった協働の基本的なところがなくなっていくことによって今現在のような課題が大きく見えてきてるんじゃないかなと。そういうことを考えたときに今ちょっとした

例であるかもしれませんが、地域づくりプランの中で地域の皆さんが、また新たな考え方の中で今、少しコミュニティがとれ始めてきてるところがあって、そこがうまくいけば次に広がっていくのではないかなと思っております。そういった仕組みをうまく回していけるような行政の支援体制、連携体制というのが必要なのではないかなと思っておる次第でありまして、それを組織ができればいいかということちょっと何か各地域ごとにも、また各エリアごとに考え方や流れが違うものですから、そういったところもトータルでいったらどういうものがあるのかなというのを非常に考えておるわけでありまして、本当になかなか議員のご指摘の課題というのは非常に大きいものでございまして、これからの成熟社会が進めていく高齢化社会の中においては、重要なことであるわけでございますので、それをしっかり捉えながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、市長がおっしゃるように非常に市民活動となりますと色々な年代、立場の住民の皆さんがいらっしゃるわけで、この人たちをまとめる、コーディネートすること、この入り口でつまずきますと非常にストップして、先ほども申し上げましたが、しばらく遠のいてしまうというようなことにもなりかねないわけなので、非常にしかけるのには難しさもあると思うんですね。

1つの方法として、一番頭に浮かぶのは、この事業は、じゃあ地区の代表である区長さん方をお願いすればいいわというふうにすぐ頭に浮かぶんですが、この区長さん方も非常に交代制であって、その地区地区で実情が違うわけですね。そうすると定番の仕事だけでもかなり持っているというふうなことで、実際この町内会の実態というのも気になる場所なんです、町内会という1つの組織体については、どのように行政としてはお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

町内会の実態というところでございますけれども、地域の自治組織におきましては、やっぱり人口減少ですとか高齢化といった流れの中で、やっぱり人材が不足したりとか、地域維持の活動が非常に厳しくなっているというところは聞こえております。そういったところもありますので、何とか人的な支援とか、そういったところで何とか踏ん張っていただきたいというふうにご考えてるんですけども、実態としては、やはり人材不足ですとか、運営の地域活動の厳しさというところは捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、今非常にやはり高齢化社会になったり人口減少において、地域の運

営も非常に多岐にわたっておるわけでございまして、区長さんの占めるやはり職務というのは、非常に大変な状況にあるかと思っております。そういう中でさらにいろんな課題が生まれてきたときに、なかなか難しい部分があると思っております。そして、どちらかという地域の方々は、知識や経験が豊富な方々ばかりでありますし、行政は、どちらかという経験がない中で知識を持って入っていくと、なかなか今、議員少しご指摘のようにかみ合わないところが出てきて、一たびかみ合わなくなってくると、ずっとその歯車はそのままになってしまう部分がございます。そういったときにやはりもう一つその中間で、間でもって少し機能するものがあればいいのではないかなど考えるわけでありまして、それは今行っておる支援員とか協力隊とかというところを、もう少しその辺が回っていけるような機能にしていかなくはないのかと思っております、やはり第三の経験の持っておられる方や知識の持っておられる方が、間へ入っていけるような形をとっていったほうがいいのかなどというのを感じてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、行政の皆さんのお考えをお聞きする中で、やはり私も将来的には、この市民活動の専門的なノウハウを持ったスタッフを配置した、いわゆる中間的な社会的企業として市民活動センターみたいな組織があれば、非常に都合がいいのかなというふうな感じもいたしました。いずれにしましても、今後、財政的な面から見ても事業の見直し、あるいは削減もあるというふうに思うんですが、単に見直しや削減でなく、協働によって経費が削減できたり、また、持続可能な事業に変わったり、今までよりも、さらに効果が期待できるというような事業も協働というものを見据えたときに出てくるんじゃないかと思っておりますので、早急にこの協働に関する、いわゆる行動計画というものをつくっていただいて、市民にも協働の見える化を図っていただきたいなど、こういうふうに思っておりますので、こちらのほうではそのようにお願いをしておきたいと思っております。

2番目の学校と地域や産業との連携、協働の推進でありますけども、学校評議員制度に変わって、小中学校運営協議会制度、コミュニティスクールですかね、これが導入されたわけですけども、これに対する主たる目的といいますか期待というのはどこにあるんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

学校、保護者、地域が連携・協働し、当事者意識をそれぞれが持って、子供の成長を支えるという学校づくりを進めていくことと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

実際に今年度ですか、全校にこういう制度が実施をされているというふうなことなんですが、まだ間もないわけですけども、実際にこの地域の方々、教職員の方々の反応というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

地域からの支援や協力によりまして、これまで以上の一層充実した教育活動を展開されております。ご協力いただいた皆様の充実感にも結びついていると掌握しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

昨年の教育委員会の会議では、仕組みや進め方についてなかなか理解が進まない面もあるというふうな説明もあって、問題は何よりも子供たちなんですが、子供たちの反応というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

子供たちのほうは、地域に学ぶ体験的な活動等によりまして、人や事象とのつながりを深めたり、広げたりしております。これまでも糸魚川は、地域との連携・協力については結びつきが強いと考えておりますけれども、さらに地域の協力が得られるようにしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、何といたっても糸魚川市での重要な課題であります学力の向上、さらにいじめをなくしたり早く解決したりというようなことについて、このコミュニティスクールを使った取り組みで効果的な取り組みというのは期待ができるのかどうか。そこまで及ぶような制度じゃないということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

コミュニティスクールによりまして、お互い顔のわかる関係の中で学校、保護者、それから地域というものが、一緒に課題を共有して、それに対応していくというふうな取り組みになりますので、対応策を考えて実行しやすくなるというふうと考えております。安心・安全対策の取り組みについても組織の中で協議していただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、コミュニティスクールの主な3つの機能の中に、学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができるという機能があるんですけども、実際に今まで何かご意見をいただいたことってあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

各学校では、教育活動について、地域の支援や協力について意見とか提案をいただいておりますけども、春先の通学時の殺傷事件の直後等に学校運営協議会の開催された学校については、ながら見守りが実施されるようなことがあったと思います。地域の人づくりについて課題を挙げながら、子育ての目標を協議・共有していくということがありますし、学校の業務負担の様子から業務改善にご協力をいただいたりしてるといふような学校もございます。これまで教育委員会のほうには、上がってきたご意見についてはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。単なる学校応援団から地域教育創造集団というふうに位置づけられるというふうなことでありますので、いい意味での改革につながればというふうに思います。

それから、学校応援隊の活動、これもかなり活発に行われているようでありますけども、これはどれぐらいの方が登録されて、実績としてはどのようなことが挙げられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

学校応援隊であります、地域のボランティアの方々の活動実績としまして、事務報告書に記載のとおりであります、平成30年度では、延べ2万4,179人となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今年度予算を見ますと、コミュニティスクール推進事業の予算が307万4,000円となっておりますね。この内容的にはどんな経費で、事業の中身はどのようなのかと。実際に5カ月経過しまし

たけども、今年度、特に力を入れている内容といいますか紹介するようなことがありましたら、お願いしたいと思うんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

今年度から市内の全ての小中特別支援学校がコミュニティスクールを始めておりますので、それにかかわる委員の報酬、それから交通費等の経費が主なものになっております。今年度、先ほど述べましたように春先の事件・事故等もございましたので、安心・安全な通学についての協議等をお願いしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

糸魚川市におきましては、もともと地域と学校とのつながりが非常に強くて、地域の皆さんから学校を助けていただいているなというふうに感じています。そういった中で、今、児童の安全・安心対策等について重点的にお願いしているということなんですけども、地域によっては防犯パトロールですとか、見守り活動が一生懸命やられている地区があります。そういった中で実際やっておられる方の状況を聞きますと、例えば健康のために、そういった児童と一緒に登下校をするといったような方がおられて、そういった形で協力いただけるとなると、お互いウイン・ウインの関係でいい協働の形とれるんじゃないかなというふうに思っています。こういったことを学校運営協議会の全体の会議があるんですけども、そういった中で事例を紹介して、無理のない協働を取り入れていければいいなというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるように、最近、学校便りが毎月発行されてるところが多いと思うんですが、非常に中身が変わってきたと。地域とのかかわりのあるような内容が、かなり紹介されているのを見ておりますので、非常に効果があらわれてきているんじゃないかなというふうに思っているところであります。

それから、学校園庭に関係するところの地域愛育成事業、こちらのほうが、予算が516万円ということなんですけども、こちらのほうは内容的にはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

地域人材と学校ニーズをマッチングさせるコーディネーターの活動謝金と、地域ボランティアの交通費が主な経費であります。そのほか広報紙の印刷、保険料などでございます。今年度は、特にコミュニティスクールとの連動に心がけておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

コミュニティスクールについても、それから学校応援隊についても非常に学校とのかかわりが、地域と関係してきておるこの活動を見ますと、先進地では、学校と地域を結ぶ場として学校内にコミュニティハウスを設置したという、非常に先進的な取り組みをしているところもあるんですが、それを考えた場合、糸魚川市でもコミュニティハウスというようなものをきちっと整備しなくても、学校の中に空き教室があるということであれば、逆にコミュニティルームとして子供たちとの交流の支援の拠点というふうなことで、活用する取り組みというのはいかならないものかなというふうに感ずるところなんです、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

コミュニティハウスにつきましては、各学校の事情とか状況によっても違うわけでありまして、学校と地域との関係を深める1つの方法として、貴重なご提言として受けとめさせていただきたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ぜひご検討いただきたいなというふうに思っております。

それから、平成28年度からだったと思いますが、高校の魅力づくりについて、高等学校魅力づくり支援事業として、本年度で4年目ですね。今年度は各校に50万円を限度に、補助金を支出しているわけですが、この事業について確認のためご説明いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問の事業につきましては、ご質問のとおり平成28年度から市内3高校の魅力を高めることを目的として創設した補助制度でございます。今現在、学校あるいは保護者会等と連携して取り組んでおりまして、ご質問のとおり今年度から、当初は40万円ですスタートした事業でございますが、今年度から上限額を50万円と増額しまして、さらなる魅力化に取り組んでいるところでございま

す。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

こちらほうの事業も、私、徐々に効果があらわれてきてるなど。いわゆる新聞紙上いろんなところでも紹介されたりしておりますので、何といたっても高校と市が身近になったというふうな感じを抱いてるんですが、この辺は距離感というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

この補助制度は、平成27年に県の教育委員会が策定した県立高校の将来構想というものがございまして、それを端緒につくった制度でございます。この創設によりまして、各高校において新たな取り組みが生まれまして、また徐々にではありますが、そういった距離感も縮まってきてるのではないかな。また、機運もそれに応じて高まってきてるのではないかなという感じがしておりますので、一定の効果があったというふうには捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ほど課長さんがおっしゃった高校再編の危機感もあってということなんですが、こちらのほうは、現実どういうふうに受けとめていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

県のほうは、県立高校の将来構想というものを平成27年に10年間をスパンで策定いたしました。後は、県立高校の整備構想というものを3年のローリングで今現在つくっております。新聞でも報道されたと思っておりますが、来年度の糸魚川高校のクラス数が、今現在5つあるところが4クラスに減るといようなところで、今現在計画はなっております。白嶺高校は3クラス、海洋高校は2クラスと、市内で10クラスあったものが9クラスに減るとい計画でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、市長は平成30年度の第1回糸魚川市総合教育会議、こちらで高校は、高校生が魅力を感じられるような学校にしていかななくてはならない。それは地域課題とどうリンクしていくかということだと。いかに生徒たちが、自分たちの将来に対し魅力を感じるかを、明確に各校の特徴として出していくことが必要ではないかと言っとるわけでありますが、私もまさしくそのとおりだと思っておりますが、市長、その考えを反映する方向で、現在動き出しているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今その方向で、私は動いていると捉えております。やはり少子化の中において、この地域の3つの高校というのは、やっぱりしっかり機能していくことが若者定着や、またこの糸魚川市の持続可能なまちになっていくんだらうということをしっかり捉えていきたいと思っております、まだまだスタートしたばかりであるわけでございますが、早目にスピード感を持ってやらなくてははいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、私期待をしているところで、今年度はコンソーシアムの構築による高校を核とした地域人材育成事業、これに取り組みたいということであったわけで、産学官の協働によるコンソーシアムの創造、こちらに関してはどのような形に持っていこうとしているのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

本事業のコンソーシアムの構築に関しましては、当初、まず協働体制、いわゆるコンソーシアムを構築して事業に取り組むというふうな予定にしておりましたが、文部科学省の評価委員も努められた大正大学の浦崎教授からの助言、また、先進地の状況を見る中で、まず学校、地域を初めとしました事業にかかわる全ての主体が、方向性をしっかり共有すること、また皆さんが自分事としてこの事業を捉えていきたいということが大切であるというふうな考えのもと、あえて今、現段階では組織化せずに各学校において企業等と協力を得ながら、各学校それぞれの魅力づくり、人材育成に取り組んでいるところであります。今後、各学校で積み重ねました協働、実践の成果、あるいは課題を産学官で深く共有する、見える化する対話と交流の場を設ける予定にしております。その事業の理解者、実践者をふやしながら、その対話と交流の場が糸魚川版のコンソーシアム、協働体制となるようにスピード感を持って進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

現段階の状況というのは、もう今のお話でわかったんですけども、いわゆる究極、糸魚川市でのコンソーシアムの理想形というのは、いつごろまでに確立させたいというふうに思っておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今現在、学校で徐々にではありますが、魅力化に向けて取り組みを行っております。そういった取り組みの経過、あるいは成果を早急にまとめまして、産学官が寄っていただいて、その場を設けるということですので、年内中には設けたいなというふうなことを思っておりますが、その場には、やはり学校もそれなりの成果を持って出てきていただかなければいけないので、早急に調整をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それからもう一つ、学校で学ぶ理論と企業で学ぶ実践を結びつけた、いわゆる糸魚川版のデュアルシステム、これも数年前から動いておるんですが、現在どのような形で活用されているのか、ちょっと紹介をしていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご存じのとおり海洋高校におきましては、課題研究、総合実習の時間等に企業等と連携しまして生徒の研究活動の場として、産学官の連携事業として機能しておりますし、また、白嶺高校におきましては、今現段階では総合的な学習の時間に企業でインターンシップを行っておりますけれども、今後、企業内の実習をふやすなどデュアルシステム、糸魚川版デュアルシステムの構築に向けて検討を進めているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

コンソーシアムもデュアルシステムも協働としての機能で、手法であるわけですから、その延長線上に目的があるわけですね。この効果が、成果として地元就職とか人口対策に結びつけたいところなんですけど、この成果指標といったものは立てて臨んでいるのかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問のとおり人口減少対策ということで、高校を出て進学をして帰ってきてくださる数がふえるということが、究極の目的だというふうに思っていますが、ただ、文部科学省のこの事業というのは、あくまでも教育改革ということで、高校生が今、社会に出て必要な力を地域と一緒に協働、地域も本気になって高校生とつき合う中で、高校生の気持ちが変わって行って楽しくなって、それで結果的に糸魚川に帰ってきてもらおうと。あくまでも教育改革というところが一義的な目的になっておりますが、私ども究極の人口減少対策というものをにらみながら、事業に取り組んでまいりたいというふうに思っております。特に指標というものは、今現段階ではこれというものは今持っておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

中学3年生のアンケート、これ見ますと糸魚川市が住みよいと言ってる生徒が64.4%、住み続けたいかというふうな問いには39.4%ということですね。いわゆる住みよいけども住めないという、このギャップを少しでも減らすためにも、この後も学校、地域、産業、連携して協働の取り組みを強化しなきゃいけないんじゃないかなというふうに私も思っておりますので、引き続き努力をしていただきたいというふうに思っております。

次に、3番目の市道の美化に関する協働活動の提案について伺いたいと思うんですけども、この問題を取り上げたのは、数年前から協働の取り組みで何とかできないものかなというふうに思っていたからであります。この問題を提起しながらも時間がたっておるわけですが、依然として国道、県道、市道ともに雑草やごみが見受けられるわけですね。これが数日、数カ月、数年といった放置とも言えるような実態もあります。特に国道なんかは、数年来そのままというようなひどい状況も見受けられるわけなんです。これはもう管理者任せでは、もうまずいというふうに感じるわけなんで、まずは市の道路だけでも何らかの具体的なアクションを起こす必要があるんじゃないかなというふうに思って質問をさせていただきます。

総合計画では、市道等の整備と維持管理のところ、協働の取り組みとして地域住民は積極的に道路の美化活動等に取り組みます。行政は、安全で利用しやすい道路整備を推進するとともに、地域住民が行う道路の美化活動を支援しますとしておりますけども、実際、どのような取り組み状況なのか、まずお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

現在、自治会ですとか各種団体、企業の皆様からボランティア活動で市道の草刈りですとか、側溝ですとか道路の清掃等を行っていただいております。糸魚川市では、環境美化パートナー制度というのがございまして、それぞれ美化活動を行っていただく団体等にごみ袋ですとか軍手等を支給貸与をしているという制度がございまして、今年度の状況ですと14の団体から、道路だけではなくて河川ですとか海岸とかそういう美化活動にご協力をいただいておりますというような実情でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

少なからず取り組みをされているということなのですが、総合計画では、きちっと市民にお願いしたいというふうにしておるわけですから、市民全体に行き渡るようなアクションを起こすべきじゃないかなというふうに私は思ってるんですけども、一挙にいかなくても方法は幾らでもあると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

総合計画にあるので、それに取り組まなければいけない。そのとおりでございます。

ただ、なかなか私どもも今、建設課の場合には、道路を管理することが私どもの義務というか仕事でございまして、その立場のほうから地元のほうになかなか頼みづらいという正直な心苦しさ的なものはございます。

ただ、今現在そういうことをやっていただいとる団体・地区というのもございますので、例えばそういうところの例を取り上げて、周知して広げていくというような、そういう取り組みというのは糸魚川市としてもできるんじゃないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

予算書を見ますと、道路維持管理費として毎年度1,500万円ほど使われているわけですが、これは主にどのような使われ方をしてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市道の草刈りですとか街路樹の剪定、枝処理、路面ですとか側溝の清掃、あと地下道とかそういう施設の管理というものもございまして、あと中にはアンダーパス等で大雨のときの緊急対応とか、さまざまなものを含めたもので予算が構成されております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この市道の総延長を考えたときに、かなり満足する道路の維持管理をするとすると、毎年どれぐらいの予算措置が必要だというふうに考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

かなり満足する維持管理というご質問で、ちょっと難しいところなんですけど、やはり私どもの維持管理としては、まずは安全面というところが重きを置きます。その上で除草ですとか清掃、道路美化までも備えた維持管理というふうになりますと、それを行政のほうでやるということになりますと、具体的な金額というのは今1,500万とかそういう数字が出ておりますが、それが幾らであれば満足ができるかというところは、なかなか難しいと思います。

ただ、具体的な金額は今言いませんが、例えば管理しておる延長あたりの管理費の延長あたりの金額で見ますと、県はかなりの金額を、糸魚川市よりかなり多くの金額というものを道路維持管理のほうにはかけておるかと思っております。単純な比較はできないですけど、そういう状況もございまして。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

課長おっしゃるように、まずは美観ばかりじゃなくて、むしろ道路の安全というふうなことですよね。じゃあこちらのほうの土砂やごみなどによって、スリップ事故なり実際に事故に結びついた実態というのは、管理上の問題からというようなのもあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

残念ながら毎年そういう事故というのは発生しておりますので、近い例でございまして、道路の側

から伸びた枝によって車のボディを傷つけてしまったとか、道路から民地のほうに入る境界の部分に側溝がありまして、その側溝にグレーチングぶた、目皿のようなふたがかかっているものが、若干がたついておって、そこを車が通過したときにはね上がって車を損傷させたとか、そういう事例というのは、件数は多くないですが、コンスタントにといいますか毎年発生してまいっております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

県道、国道も同じくあるわけですが、先ほどの課長の説明だと、県のほうは予算を市よりも持っておるというふうなことなんですが、県の状況を見てみますと、うるおいの郷土（ふるさと）はぐくみ事業ですか、これで県道とか河川の美化に協力していただける団体を登録していると。糸魚川地域振興局管内をちなみに見ると、8団体登録されてるというんですけども、この辺の情報というのは入っておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

事細かな具体的な作業を、実際に見させていただいて確認しとるところまでは把握をしておりますが、能生地域で2団体、糸魚川地域で6団体というものが登録されておまして、道路や河川の美化活動、清掃活動等にご協力をいただいておりますということは把握をしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

国道の状況、ここには協働の取り組みというのは何かあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

国交省のほうでは、同じように地域の皆様ですとか企業の皆様に道路の美化活動に参加していただいて、快適な道づくりを進めるといったことを目的にしまして、ボランティアサポートプログラムというものが用意をされておまして、糸魚川市内で10の団体が登録されておまして、道路の美化活動等を行っていただいておりますというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私は、平成22年の9月の議会で、市民と行政が協働で進める新しいまちの美化プログラムとしてアダプトプログラム、この制度を提案をさせていただいたことがあるんですけども、ことしの春のデータを見てみますと、実施自治体数が423自治体で、プログラム数が約570プログラム、参加団体数は4万5,000団体で、活動者数が250万人と言われてますね。9年前に比べて約2.5倍となってるわけです。9年前の提案時には、検討を約束していただいていたんですが、検討内容と合わせて、この制度について若干ご説明をいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、アダプトプログラムということ、これの説明なんですけど、このプログラムというのは、もともとはアメリカを起源としておりまして、市民ですとか団体の方が行っていただく公共の場の美化活動というものを行政が支援するような形なんですけど、それをちゃんと協定によってお互いが確認をして、そういう活動について公表・周知を図ると。それぞれ美化だけではなくて、地域の一体感とかそういう副次的な効果の期待できる活動であるということが定義されております。

過去にも議員のほうからは、何回かこのご質問をいただいております、その都度、理事者、担当課長のほうから前向きに取り組むような答弁のほうもしております、現在の、先ほど私申しました環境美化パートナー制度ということで、糸魚川市のほうで用意しておるところに、数は14団体ですが、活動いただいておりますというの、それらの取り組みの結果ではないかというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるように完全なるアダプトプログラムでないかもしれませんが、類似するような制度をつくっていただいているということでもあります。今回は、もっと踏み込んで、全市的な取り組みに、行政と市民の協働による、市民ができる範囲の市道の清掃活動に特化して、全市的な取り組みとして提案をさせていただきたいというふうに考えておるんですが、その辺を踏み込んだ対応っていかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市長の答弁にもございましたが、現状ではさまざまな地区、多くの地区の皆様からご要望をいただいております。糸魚川市はその要望に応えきれていないというのが現状でございます。それらのことですか、また先ほど私、アダプトプログラムの効果・成果みたいな答弁をさせていただいたんですが、市民の皆様へボランティアでそういうことをお願いするといったなかなか難しさというものも感じておるところでございます。どうやったら市民の皆様にご理解をいただけるか、そのようなご提言というのがあれば、ぜひありがたく頂戴をしたいと思っておりますので、またご指導よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この協働活動にもいろいろあって、条件が整わないとなかなか取り組めないものもあるわけですが、その点では、市道の清掃・美化、これ非常にわかりやすいと思うんですね。ほぼ誰でも、いつでも、どこでもできるというふうなことでありますし、協働活動のモデルにもなると思うんですね。私はそんなに心配することなく、反対する人はいないと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今、現状におきましても先ほどのパートナー制度に登録されておらんくても、実際、個人単位ですとか地区単位でとか、お年寄りの集まり単位で道路の清掃・美化、また広場の清掃・美化等にご協力、ボランティアでやっていただいておりますという方は多くいらっしゃると思っております。それらを例えば取り組みというのをモデル地区とかモデル路線とかモデル広場みたいな形で取り上げて、そういうことを周知していくと。協働活動というものを周知して、実際やっていただいとるやつを多く知っていただくということが、この先広く展開していくためには必要なことなんじゃないかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるように行政から地区の方々に対してなかなかお願いしづらい地区もあるというふうなことも聞いとるわけですが、快くこれを受けとめてくださる地域というののもかなり、逆にそちらのほうが多いんじゃないかなと私は受けとめております。

しからばじゃあどうい方法で進めるかというふうなことなんですが、これだというふうなもの

も持ち合わせないで一般質問してるわけですけども、先般、私、8月の下旬でしたけども、ある地区で区長会がありまして、そこで実は今お話しさせていただいてる市道の美化について協力をお願いをさせていただきました。ここの地区は、先頭を切って地域ぐるみでこの美化活動に対応していただきたいというふうなお話をさせていただきました。そうしたところ、市道に関するいろんなお話、いわゆる市道にかかっている木とか倒木みたいなものとか、そういうようなことの場合はどうすればいいとか、しばし話題になりました。感触としましては、これはやはりお話しすれば対応していただけるだろうというふうな感触を得ておりますので、ぜひとも課長さんから行って、また道づけはしたいと思っておりますけども、行っていろんなお話をすることでモデルになるような地区にしていけたらなというふうに思いを持っておりますので、そんなふうに感じてるんですが、そのような流れになりましたらよろしくお願ひしたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

どうしても私ども、今までは地域からお願いが来るとか、叱られるとか、そういうふうなことが多かったものですから、なかなかそういう機会というのが、今までそういう経験がなかったものですから、やっていただいとる前向きな地区の方の声を聞かせていただけます貴重な機会であるというふうに捉えさせていただきまして、当然、関係する課も複数ございますので、その課とも連携を図りながら、ぜひ対応させていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

その地区は、既に思い思いに自宅の前とか周辺の清掃をやられておる地域でありまして、地区みんなで、地区ぐるみで取り組むというふうなことになるれば、健康を害してる方とかひとり暮らしの皆さんのところは、逆にそういう形をつくっていただければ気兼ねなく協力できる形にもなるかと思うんですが、そうでないとなかなか健康を害してるお宅とか、おひとり暮らしのところへ行って、市道とはいえ掃除してると何かやりづらい面もあるわけなんで、その辺やっぱり全市ぐるみでできるような形をすれば、協力関係もきちっとできるんじゃないかなというふうに思っております。

総合計画にはっきり取り組むというふうにしてることからも、私は進めなければならないと思っております。地域の皆さんによく説明をするということ、これはやはり市の広報とかおしらせなどで丁寧呼びかけていただきたいと思ひます。

○議長（中村 実君）

時間になりましたので。

○17番（渡辺重雄君）

よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

15時20分まで、暫時休憩いたします。

〈午後3時07分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、行政改革について。

(1) AIによる経営分析とその活用について。

① AIの運用で「見える化」を図り、経営改善をした老舗食堂の報告がある。そこで、権現荘やスキー場などの収益事業でAIを導入し、経営改善を行う考えはあるか。

② 税収アップの視点から、市内中小企業に対して、AIによる経営分析導入支援や既存の各種補助制度の周知に取り組む考えはあるか。

(2) 外部監査の導入について。

外部監査の実施を求めて久しく、その間、職員の不手際、怠慢、認識不足による不祥事が絶えない。内部監査と並行して外部監査を行い、会計と事業内容の透明性を図る考えはあるか。

(3) 市民の満足度や成果を重視した行政の固定費改革について。

① 庁舎のエアコンや照明について市民の視点で行っているか。

② 各施設のエアコンの温度設定と職員の業務の効率化の検証を行う考えはあるか。

③ 公用車の法定点検率とドライブレコーダーの設置率は、どうなっているか。

④ 正職員と臨時職員の働き方改革として現在、何を行っているか。

2、観光誘客の手法改革について。

(1) アニメ、漫画、ゲームを利活用した取り組みについて。

① 株式会社ポケモンが行う「ポケふた」、これはマンホールのふたであります。ポケふたに参加する考えはあるか。